

令和8年産「ヒヨクモチ」栽培こよみ

JAくるめ
久留米普及指導センター

月	5		6		7		8		9		10		年内
旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上～下		
生育	育苗期間			活着期	有効分げつ期		無効分げつ期		幼穂形成期		出穂期	登熟期	成熟期
水管理					浅水たん水 間断かん水		中干し(5～7日) 間断かん水		たん水(水をきらさない) 間断かん水		落水(収穫7日前)		
管理作業	播種(催芽粉150g/箱)				(水深) 移植 除草剤散布① 耕起、代かき 基肥散布 土壌改良資材の投入 土づくり、麦わらのすき込み		除草剤散布② 中干し開始 茎数18本 株より開始 黒乾で小ひびが入る程度		穂肥1回目 穂肥2回目 基幹防除 補正防除		落水(収穫7日前) 収穫 耕起・稲わらのすき込み		
＜収穫・乾燥上の注意点＞ ・適期収穫：籾水分 22～29% ・早期落水は絶対にしない ・乾燥玄米は水分14～15%													

施肥基準

時期	施肥項目	肥料名 (10a当り使用量)
土づくり	堆肥	土力目標 (1トン)
	土壌改良資材	ミネラルG (160kg) 又は けい酸加里 (40kg)
分肥	基肥	ちくごのめぐみ444 (40kg)
	穂肥①	追肥化成34号 (20kg)
	穂肥②	追肥化成34号 (15kg)
一発全量施肥	基肥一発	エムコート020晩生 (55kg)

施肥上の注意点
①堆肥や土壌改良資材の施用、深耕などの土づくりを行いましょ
②基肥の施用は前作および地力等を考慮して、5~10kgの範囲で加減して下さい

病害虫防除基準

箱施薬		ブーンゼクテラ箱粒剤 1kg/10a(50~100g/箱) 播種時(覆土前)~移植当日 いもち病・白葉枯病・ウンカ類・コブノメイガ他
粉剤		
8月	中旬	オーケストラロムダンモンカット粉剤DL 4kg (収穫14日前まで) ウンカ類幼虫・コブノメイガ・紋枯病
	中旬~9月上旬	ブレードスタークル粉剤DL 4kg (収穫7日前まで) 穂いもち・ウンカ類・カメムシ類
9月	補正防除	スタークル粉剤DL 3kg (収穫7日前まで) ウンカ類・カメムシ類 ※多発時は必ず防除する
液剤		
8月	中旬~9月上旬	オーケストラロムダンモンカットエア- 1,000倍液を60~150ℓ (収穫21日前まで) ウンカ類幼虫・コブノメイガ・紋枯病
		ノンプラスフロアブル 1,000倍液を60~150ℓ (収穫7日前まで) いもち病・もみ枯細菌病
9月	補正防除	スタークル液剤10 1,000倍液を60~150ℓ (収穫7日前まで) ウンカ類・カメムシ類
		スタークル液剤10 1,000倍液を60~150ℓ (収穫7日前まで) ウンカ類・カメムシ類

※ミツバチへの危害防止のため稲の開花期に農薬を使用することは避ける
※箱施薬の使用を前提としているため、箱施薬は必ず規定量を使用すること
また、トビイロウンカ対策としてこよみに記載している箱施薬が有効です
※ジャンボタニシ対策はスクミノンが使用できます

雑草防除基準

時期	農薬名	10a当り使用量	使用時期 (移植後日数)	ノビエ
初・中期	ラオウ	1キロ粒剤	1kg	~2.5葉期
		ジャンボ	250g	
	サラブレッドKAI	1キロ粒剤	1kg	~2.5葉期
		ジャンボ	400g	
	ジェイソウル	1キロ粒剤	1kg	~2.5葉期
		ジャンボ	450g	
中・後期	クリンチャーバスME液剤	1000ml (水70~100ℓ)	15~ 収穫50日前まで	~5.0葉期
	ロイヤント乳剤	200ml (水25~100ℓ)	20~ 収穫45日前まで	~5.0葉期

・ロイヤント乳剤を落水状態で散布した際は、3日以内に入水する。

農薬使用の注意点

- ①農薬の使用基準を守ってください。
- ②防除日誌を記帳して防除記録を残してください。
- ③農薬を散布するときは、風の有無を確認し、散布機圧力を調整するなど周辺の作物に農薬が飛散しないよう十分注意してください。
- ④記載農薬は、令和8年2月の登録内容に基づき記載しています。農薬を使用する際は、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認してください。